

☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」

○日時：1月9日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：10組程度

《12月のおはなし会で使った本》

『もりのおふろ』 西村敏雄/さく 福音館書店 2008.3

『せん』 あらいひろゆき/作・絵 岩崎書店 2017.9

『The very hungry caterpillar's Christmas 123』 by Carle, Eric Grosset & Dunlap 2015

『クリスマスのかくれんぼ』 いしかわこうじ/作・絵 ポプラ社 2014.11

『頭のいい子が育つ英語のうたハッピークリスマスソング』 村松美映子/英語監修 新星出版社 2017.11

◎申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2113 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

★「山口県子ども読書活動推進計画第5次計画（素案）」に対するパブリック・コメント（県民意見の募集）の実施について

山口県教育委員会では、子どもの読書活動を推進するため、「山口県子ども読書活動推進計画第5次計画」（2023年度から2027年度）の策定に向けて検討を進めています。これまでの検討状況をまとめた計画素案を公表しますので、県民の皆様のご意見を募集します。

募集期間：令和5年12月22日（金）～令和6年1月22日（月）

※公表資料及びご意見の提出先や提出方法等の詳細は、県庁ホームページをご覧ください。

※<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/21/13213.html>

【新刊紹介】価格は消費税抜き

<絵本-3, 4歳から>

『なにができる?』 キボリノコンノ/さく PHP 研究所 2023.10 ¥1400

おおきなしゃくい木が1つ。なにができる?切ってけずって、ほってみかいて、いろをつけてあげたら、ほんものそっくりのゼリーができた!木が2つでえびのおすし、3つでホットケーキ、4つだとなにができるかな?木の鮮やかな変身に驚かされる写真絵本。著者はSNSで多くの作品を発表してきた木彫りアーティスト。見返しに木彫りのゼリーができるまでの写真つき解説あり。

『ゆきのひ』 サム・アッシャー/作・絵 吉上恭太/訳 徳間書店 2023.10 ¥1700

あめがふっていてとてもさむいあさ。「きょうはなんにもしたくないや」というぼくに「じゃあ、とくべつなことをしよう」とおじいちゃんはいう。めがねやさん、としょかん、いろんなどうぐやざいりょうをうっているおみせをめぐり、かってきたものでふたりが見つけた「いいもの」とは?悪天候も工夫次第で特別な日になる、『あめのひ』『かぜのひ』に続くファンタジックな絵本。

<絵本-5, 6歳から>

『ヤモリ3きょうだい』 やぎたみこ/作 理論社 2023.10 ¥1400

へやをきれいにしなくちゃいけないのに、なかなかはかどらないそうたくんとげんたくん。ふたりは、りゅうじんのいっつけでこのいえをまもっているヤモリくんにてあ、かたづけかたをおしえてもらうことに。かたづいたら、つぎはヤモリスーツでヤモリにへんしんして、おそうじスタート!ふたりはだんだんたのしくなってきた…。ヤモリの生態を活かした意外な展開が愉快な絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『パッチワーク』 マット・デ・ラ・ペーニャ/文 コリーナ・ルーケン/絵 さくまゆみこ/訳 岩波書店 2023.9 ¥1700

生まれるまえからブルーをあてがわれているきみだけど、おとなになったら、いちばん好きな色は茶色になるかもしれない。いつも先生をからかったりふざけたりしているきみは、同じような子の気持ちがわかる、すてきな先生になるかもしれないね。出会ったものや感じたことがぬいあわさって、きみというパッチワークができていくんだ。人間の本質的な美しさを力強く肯定する絵本。

『そんなことも知らない?』 パクジョンソプ/作 なかやまよしゆき/訳 フレーベル館 2023.10 ¥1600

おなかを空かせたアンコウは、サカナをむれから引きはなして食べるためのやり方を思いつく。それは、色とりどりのサカナがいる中で「あかいサカナがかぜをひいてる」とウソの情報を流すこと。「うつたら大変」とむれから追い出されたあかいサカナを食べたアンコウは、さらにはあかい色のサカナも分断されるようにしむけ…。フェイクニュースが起こす問題を寓話的に描いた絵本。

<読み物-小学校低学年から>

『なぞなぞのすきな女の子』 松岡享子/さく 大社玲子/え Gakken 2023.11 ¥1300

なぞなぞのすきな女の子は、なぞなぞ遊びの相手を探しに森へ。そこで出会ったのは昼飯をさがしていたオオカミで…。しっかりものの女の子と憎めないオオカミのやりとりが楽しいお話し。本書は刊行50周年を記念した新装版。姉妹本『じゃんけんのすきな女の子』も同時刊行。作者は石井桃子氏らと財団法人東京子ども図書館を設立し、長く子どもの本の研究と普及につとめた。

『バイバイ!おばけマンション』 むらいかよ/著 ポプラ社 2023.10 ¥1100

おばけの国ポポヨンからやってきた女王モモちゃんやおばけたちと仲良くなった人間の子どものルイくんたちが繰り広げるにぎやかで楽しい物語。モモちゃんたちのマンションとなる「なんじゃもんじゃの木」が枯れかかってしまう。薬を作っているカミムシ様を探したり材料を集めたりと奮闘するが…。2002年から始まった「おばけマンション」シリーズ第50巻で、本作が最終巻。

<読み物—小学校中学年から>

『100年見つめてきました』 吉野万理子/作 川上和生/絵 講談社 2023.11 ¥1450

現存する日本最古の大型遊具「飛行塔」の視点で語られる歴史ファンタジー。1929年にオープンした生駒山上遊園地の飛行塔は、やってくる子供たちを空の世界で楽しませることや話しかけてくる動物たちとの交流を楽しみに過ごす。しかし戦争が始まり、周囲の様子は一変。穏やかな日常を願う飛行塔の思いが綴られる。巻末に本書に關係する主な出来事の年譜・関連用語の角解説あり。

<読み物—小学校高学年から>

『なんとかなる本』 令丈ヒロ子/著 浮雲宇一/絵 講談社 2023.10 ¥1350

マユカの機嫌を取りたくて考えたゲームのせいで6年2組のクラスメイトと気まづくなったチサ。図書室の前で『なんとかなる本』を拾うと本が実っている樹が目の前に。声をかけてきたのは一級コトノ使い 樹木(きほん) 図書館司書葉飛(ようひ)。葉飛にコトノの術をかけられたマユカは…。コトノがうまく使えていない5人の子供達の姿を通してコトノの大事さや価値を伝える物語。

『いまにヘレンがくる』 メアリー・ダウニング・ハーン/作 もりうちすみこ/訳 偕成社 2023.11 ¥1600

母が再婚し新しくできた妹ヘザーに拒否され、家庭での居心地が悪くなる少女モリー。一方誰にも言えない秘密をもつヘザーは、引っ越し先の教会にある墓地に近づき幽霊のヘレンに魅入られてしまう。恐怖に震えながらも妹を救おうとするモリーは…。全米で35年以上読みつがれるゴースト・ストーリーを初邦訳。原タイトルは『Wait till Helen comes』

<読み物—中学生から>

『G65』 石川宏千花/作 さ・え・ら書房 2023.10 ¥1600

貴和はグラマラスな中学2年生。胸が大きいことが悩みだけれど、親友の涼子ちゃんにも言えずにいた。盗撮事件に巻き込まれ、心に傷を抱えた貴和は十未子叔母さんの家に引っ越し、家から離れた中学校に通うことに。叔母の十未子、保健室の三森先生、そして一人の劇団女優の存在を心の支えに、少しずつ前向きになっていく貴和。悩みを抱えた少女の自立と心の再生の物語。

『アナタノキモチ』 安田夏菜/著 文研出版 2023.10 ¥1600

ひよりは二世帯住宅に住む女の子。5歳の夏、いとこで同年のハルくんが家に引き取られることに。ハルくんは生まれつきの障がい、人の気持ちがわからない。ひよりとハルくんが中1の5月、祖母の入院で家族は一変し…。ハルくんが家族になってからの出来事が、ひよりと祖父の視点から綴られる。「人の気持ちがわかる」ということを考えるきっかけとなる物語。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『リスのエビフライ探検帳』 飯田猛/著 技術評論社 2023.11 ¥1400

森の小道で見つけたエビフライにそっくりなものは木の上でリスがかじっているのと同じ。その正体はリスが中の種をかじり終わったあとのマツボックリ。リスがマツボックリを食べる様子やマツボックリの実の特徴、生態等について豊富な写真と可愛いイラストで紹介する科学絵本。巻末には、マツボックリの種を食べる他の動物や様々な種類のマツボックリについての掲載あり。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『手紙っていいな』 富樫忠浩/監修 文研出版 2023.10 ¥3000

ゆいの引っ越しをきっかけに手紙を書こうとするひなたの姿を通して、手紙の書き方や手紙が届くまでの郵便局の仕事等を紹介。メールやSNSで手軽に速く相手とコンタクトが取れる時代だからこそ時間をかけて言葉と向き合うことの大切さに気付く1冊。手紙が出てくる本のコラム、関連用語の索引、手紙の下書き用ワークシートがダウンロードできる二次元コードあり。全4巻。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『教育漫才のススメ』 田畑栄一/監修 フレーベル館 2023.10 ¥3200

小学校の元校長先生のアイデアで始まった子どもたちが学校の授業で行う「教育漫才」。マイナス言葉を使わないこと、叩く蹴るなどの暴力をしないことの約束を守りながら「温かい笑い」を目指す。ルールややり方、授業・行事での取り入れ方、効果などを解説する。ワークシートや教員に向けたメッセージ、授業の組み立て方・指導の例の掲載あり。担任の先生にもおすすめの1冊。

『ゲルニカとパブロ・ピカソへの祈り』 久保田有寿/監修 岩崎書店 2023.10 ¥3600

1937年4月スペイン北部の小都市ゲルニカが無差別爆撃を受けたことを知ったピカソが怒りに震え創作した油彩の作品「ゲルニカ」。巨匠ピカソの波乱万丈の生涯とゲルニカ等の代表作について、写真や図などの豊富な資料と分かりやすい言葉で解説する。見返しに本書で紹介されるピカソ作品の所蔵元美術館をまとめた地図、巻末にピカソの人生の年表、関連用語の索引あり。

<ノンフィクション—中学生から>

『紫式部は今日も憂鬱 令和言葉で読む『紫式部日記』』 堀越英美/[訳]著 山本淳子/監修 扶桑社 2023.11 ¥1400

平安女流文学の代表作の一つである『紫式部日記』を令和のOL風の言葉で全訳。「重陽の節句」は「菊の花でアンチエイジング」、『源氏物語』の写本づくりを「コピー本製作」など、中学生でも共感できる現代語訳になっている。現代とは異なる風習など、平安文化についてもわかりやすく解説。清少納言との関係については語説を丁寧に紹介している。

<研究書>

『おいしいふ〜せん』 角野栄子/著 NHK出版 2023.11 ¥1850

ファンタジー世界であっても作品に登場する料理はどれも再現可能なほど、食べ物にはこだわりのある著者。懐かしい昭和の食卓、海外で出会った珍しい食材など、“食”をテーマにした『NHK きょうの料理』連載に書き下ろしを加え書籍化。友人が住む下関を訪問した際のエピソードも。巻末の「角野栄子のこれまで」に収録エピソードの時期を記載。挿絵も著者。

『アルプスの少女ハイジの料理帳』 イザベル・ファルコニエ/著 アンヌ・マルティネッティ/著 金丸啓子/訳 原書房 2023.11 ¥2500

スイス出身のジャーナリスト・イザベルと、ハイジをこよなく愛す作家・アンヌによる「ハイジ」の作品解説、及び作中に登場する料理や菓子のレシピを紹介。レシピ編は物語の舞台ごとの4章に分かれており、料理が登場する場面の日本語訳も掲載。日本はアニメ版の影響で、アルプスの山中で過ごす少女の物語という印象が強い。ハイジの物語の本編を読み直したくなる1冊。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→
<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>

